

## NKワークスが業界初の予測型見守りシステム「ネオスケア」を発売

### ポイント

- 10施設49名を対象にした実証試験において、転倒回数47%減、介護者の業務負荷3割減を  
実証（「H26年度ロボット介護機器導入実証事業」調べ）
- 見守りの履歴をデータ解析することで日常生活動作の変化を把握可能



### 背景

超高齢社会の進展により3人に1人が65歳以上となる日も目前に迫っています。一方で、要介護者を支える介護職員の離職が深刻さを増しています。介護職員の身体的・精神的負荷を軽減し、離職を食い止めることが介護現場の喫緊の課題になっています。

介護現場では、事故の約半数を占める転倒・転落事故の防止が大きな課題です。転倒・転落の予兆動作をいち早く捕らえ通知することが必要です。また、高齢者の体の衰えも転倒・転落の原因の一つです。体の衰えを予防し、高齢者の自立を促す介護の実現が必要とされています。

### 特長

「ネオスケア」は従来の見守り機器と異なり、最先端のロボットテクノロジーを用いた精度の高い見守り機能と人間による繊細な見守りを融合することで、今までできなかった見守りを可能とするロボット介護機器です。

- 赤外線センサーにより昼夜を問わず暗室でも対象者の動きを見守ることができます。
- 内蔵されたセンシング機能は、対象者の様々な動作パターンを認識できます。
- リアルタイム映像配信機能により介護現場の見える化（プライバシー保護対応）を実現します。
- 日常生活動作（ADL）のモニタリング機能により、生活不活発病を早期発見できます。
- 検知履歴・映像録画機能は、最適な介護プランの作成に役立ちます。



### 今回の成果

ノーリツ鋼機グループのNKワークス株式会社（本社：和歌山県和歌山市、代表取締役社長：藤本 倫生）は、画像処理技術を活用した業界初の予測型見守りシステム「ネオスケア」を10月6日から正式に発売しました。「ネオスケア」は経済産業省の「ロボット介護機器開発・導入促進事業」において同社が開発し製品化したもので、経済産業省と厚生労働省が定めた「ロボット技術の介護利用における重点分野」（平成24年11月策定、平成26年2月改定）の「認知症の方の見守り（介護施設型）」分野の製品です。

なお、「ロボット介護機器開発・導入促進事業」は平成25年度から平成29年度の5年計画の事業で、平成27年度から国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が事業の推進、執行を行っています。

※ NKワークス株式会社は平成27年度の「ロボット介護機器開発・導入促進事業」の公募にも、「認知症の方の見守り（在宅介護型）」分野で応募し採択されました。AMEDは、この重点分野の開発でも引き続きNKワークス株式会社を補助していくとともに、基準策定・評価コンソーシアムを通して環境整備等の支援をしていく予定です。